

第18号

ひたちなか市文化協会会報「白亜紀」

白亜紀



ひたちなか市文化協会

題字 白亜紀 河野 秋月

由来

砂岩とシルト岩が互層を呈する7千5百万年前の中生代白亜紀の地層。白亜紀の岩に波の碎けるさまは悠久の命を感じさせる。文化芸術を創造し、享受し、文化的な環境の中で生きる喜びを見いだすことは、人々の変わらない願いである。人生は短く、芸術は永し、ひたちなか市文化協会の目指すものは悠久の芸術そのものである。

写真と文 「新たな夏の風物詩」 福田 仁

「那珂湊天満宮御祭禮」は、数百年有余年の歴史を刻んで現在に受け継がれている。その花形は各町が伝統に誇りを持ち労力を惜しまずに練り出す風流物「屋台」であることは今も昔も変わらない。

関東一円からの多くの客で賑わうお魚市場…銀の鱗(ウロコ)と潮の香り、威勢の良い呼び込みのシャガレ声飛び交う中を、オツシヤイ囃子や角付けで演じられる大漁節等の景気の良い曲に乗って屋台が練り歩く。

伝統床しい湊の風情と、おさかな市場の賑わいが見事に調和して、2年に一度の新たな夏の風物詩となっている。

目次

会長あいさつ いきいきとした 文化協会を！	1
令和元年度活動報告	1
活動報告	1
総会	2
芸術祭	2
一日体験教室	2
春の祭典	4
団体の活動紹介	6
美術部門	6
美術協会	6
書道連盟	6
陶芸協会	7
写真連盟	8
音楽部門	8
合唱連盟	8
市民吹奏楽団	9
市民オーケストラ	9
ジャズ連盟	10
舞踊部門	11
舞踊連盟	11
洋舞踊協会	11

伝統芸能部門

邦楽連盟	12
吟詠剣詩舞連盟	13
民謡民舞連合会	13
伝統文化連盟	14
華道・茶道部門	14
華道連合会	14
茶道連合会	15
文学部門	16
俳句連盟	16
棋道部門	16
囲碁連盟	16

文化協会組織図	17
編集後記	17



「春の祭典」より
華道連合会(池坊)による迎花



いきいきとした文化協会を！

ひたちなか市文化協会
会長 初見 宗郷

2019年度は、平成から令和に変わる節目の年になり、真新しい希望に満ちた意欲ある年として5月にスタートしましたが、10月の豪雨による浸水、2月の新型コロナウイルスの流行など恐ろしい年度でもありました。その中で、令和元年度の芸術祭は、10月1日に開催した第1期美術展覧会を皮切りに、21事業が滞りなく開催され、無事終了しました。

今年度も、各団体のレベルの向上が図られた素晴らしい発表会・展示会でありました。そして、文化協会最大のイベント『春の祭典』も14回目を迎え、今流行っている曲、素材を取り入れる等、各団体の特徴ある演奏・演技・作品が披露され、幅広い文化の高さを感じるものでした。

このフェスティバルに出演する子どもたちを、地道に指導しています。今回は、10回目の開催にふさわしく、ますます充実した内容で、大勢の観客を感動させていました。主催としてのこの取り組みに、敬意を表するとともに、感謝の念に絶えず、そして、これからのひたちなか市の文化の創造の原動力になると確信しています。

また、『一日体験教室』ですが、今年度で4回目を開催することができました。今回も、14団体が参加され、15のジャンルの体験内容となり、約600名に体験していただきました。この一日体験教室も、毎年続けることにより、伝統文化フェスティバルとは違った次世代への文化継承の礎を築くものと思います。

手の入会が少ないのが最大の要因です。今年度、若手に文化協会の存在を知ってもらおう手段として、文化協会のホームページ公開の提案に、約70%の理事の方の賛成を得ましたので、2020年度には、ホームページ開設に持ち込みたいと思っています。この他「一日体験教室」のような事業を各学校向けの授業としてできないかも検討していきたいと思っています。更に、新しい団体の加入による会員の増加も重要でありますので、ひたちなか市で活躍している団体へ、文化協会所属の利点などを紹介して積極的に勧誘することも重要と思います。

最後に、翌年2021年には文化協会創立25周年を迎えますが、これまでの四半世紀の歩みを継承するとともに、次なる四半世紀に向けて、変化を加え、いつもいきいきとした協会でありたいと思っています。

令和元年度 活動報告

4月12日 ・理事会
ふあみりこらぼ

4月22日 ・会計監査
ふあみりこらぼ

5月10日 ・理事会
ふあみりこらぼ

5月24日 ・元年度総会・懇親会
クリスタルパレス

7月12日 ・理事会
ふあみりこらぼ

8月4日 ・一日体験教室
市文化会館

9月26日 ・編集委員会
ふあみりこらぼ

10月1日 ・芸術祭開催
市文化会館他

10月18日 ・理事会
ふあみりこらぼ

1月10日 ・理事会
舞台部門会議
ふあみりこらぼ

2月9日 ・春の祭典
市文化会館

総 会

令和元年度 ひたちなか市文化協会総会

日 時 令和元年5月24日(金)
午前10時30分から
会 場 クリスタルパレス長寿荘
出席者 53人
委任状 13人(構成員 66人)
議 長 高橋 和彌氏(民謡民舞連合会)
司 会 鈴木 隆氏(伝統文化連盟)

本年度の総会は、鈴木氏の司会進行で開催され、初見会長の挨拶で開始、来賓の大谷明市長及び清水立雄市議会議長よりご祝辞をいただきました。来賓の方々の紹介がありました。議長に高橋氏が選出され議事に入り、30年度事業実績、収支決算および決算監査の報告があり、それぞれ承認されました。

議案の令和元年度事業計画、収支予算及び理事の承認については、原案通り承認されました。

教育委員会と連携し、協会の各団



大谷市長

初見会長



◆鈴木氏によるファゴット独奏
「時代」「川の流れるように」
「若い広場」「そして未来へ」

体が小中学校へ出向き、出前授業等の計画をしてはどうかという質疑に、市では、地域に伝わる伝統文化を鑑賞したり、体験する伝統文化継承事業を行っています。この事業では指導者として協会に協力をいただいております。今後も実施校を増やしていくため、教育委員会にも協力いただければ、教育委員会にも協力いただけよう検討したいと回答しました。

議事終了後のアトラクションは、市民オーケストラの鈴木恭介氏による演奏で、普段はソロで聴く機会がないかと思いますが、温かみのある優しい感じの音色で、とても心が癒されたひと時を過ごしました。

芸術祭日程

10月1～6日	美術展覧会(絵画・彫刻・写真)
10月6日	市民オーケストラ第38回定期演奏会
10月13日	日本舞踊公演&舞踊まつり
10月14～20日	美術展覧会(書道・陶芸)
10月20日	吟詠剣詩舞大会
10月23日	市内小中学校音楽会
10月27日	茶道連合会茶会
11月3日	第49回民謡民舞秋まつり
11月3～4日	いけばな展
11月17日	第39回邦楽連盟三曲演奏会
11月17日	俳句大会
11月20～24日	児童生徒作品展
11月24日	ふるさとの伝統芸術文化鑑賞会
12月1日	合唱祭
12月8日	バレエ&ジャズダンスフェスティバル
12月15日	市民吹奏楽団第35回定期演奏会
12月22日	Bトレイン27周年コンサート
1月19日	市囲碁大会
1月19日	第10回子ども伝統文化フェスティバル
2月9日	文化協会総合発表会 「第14回春の祭典」

芸術祭は、市民の芸術文化の振興と育成、向上を目的に開催されています。右記の日程で開催され、日頃の活動成果を発表しました。大勢の市民の皆様が鑑賞して頂いたことは、会員の励みになった事と思えます。

美術展覧会上位入賞者

【写真】	市長賞(特賞) 議長賞(優賞Ⅰ席) 教育長賞(優賞Ⅱ席) 市長特別賞(委嘱出品)	尾形 武 川崎 博
【陶芸】	市長賞(特賞) 議長賞(優賞Ⅰ席) 教育長賞(優賞Ⅱ席) 市長特別賞(委嘱出品)	安 隆己 筑後 弘夫 金澤 恵美子 小野 牧子
【書道】	市長賞(特賞) 議長賞(優賞Ⅰ席) 教育長賞(優賞Ⅱ席) 市長特別賞(委嘱出品)	岡田 雙鴻 石井 憬玖 横山 香月 新國 晁光
【絵画】	市長賞(特賞) 議長賞(優賞Ⅰ席) 教育長賞(優賞Ⅱ席) 市長特別賞(委嘱出品)	中村 光夫 金沢 光雄 川崎 博

楽しく学ぼう芸術文化

第4回 一日体験教室
8月4日(日) 文化会館

昨年同様15種目の体験教室を開催、小さな子供さんから大人の方まで幅広い年齢層の方々が参加されました。夏休みの宿題や、普段触れる事がない楽器等、色々な事を、みんな真剣に体験されていて、有意義な一日を過ごされたのではないのでしょうか。

様々な文化に触れ、体験できる機会を提供することによって、芸術文化に対する関心を高めて頂けたら幸いです。様子は写真でご覧下さい。

一日体験教室の様子



絵画



書道



陶芸



合唱



吹奏楽



オーケストラ



タップダンス



邦楽(箏)



民謡(尺八)



伝統文化(大正琴)



いけばな



囲碁



日本舞踊



スタジオ撮影

第14回春の祭典

2月9日(日) 文化会館

天候にも恵まれ、本年度も春の祭典が盛大かつ華やかに開催されました。春の祭典は、市文化協会加盟団体が、1年間活動してきた成果を披露する総合発表会として、毎年開催されています。今回も舞台部門・展示部門ともに、見応えある素晴らしい発表でした。また、昨年新たにジャズ連盟に加盟した、パープル・ウィンド・ジャズ・フレンズも演奏しました。

ひたちなか市芸術祭の締めくくりにふさわしい春の祭典を、今後も開催していきますよう、文化協会の皆様のご協力をよろしくお願いたします。

【舞台部門の様子】



市民オーケストラ



市民吹奏楽団



合唱連盟



邦楽連盟



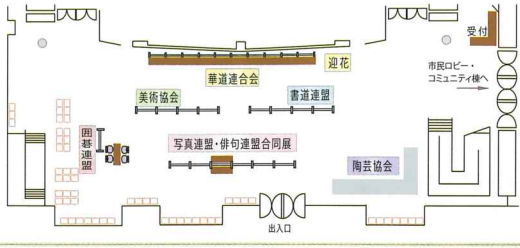
パープル・ウィンド・ジャズ・フレンズ

令和2年2月9日(日) ひたちなか市文化会館 10時開場

舞台部門 プログラム (大ホール) ※ 開始時間は予定の時間にて。

市民オーケストラ	10:30～	「アナと雪の女王」メドレー 「ベルシヤの市場にて」
市民吹奏楽団	10:50～	「優しいあの子」「フレア」「パプリカ」
合唱連盟	11:10～	【コール・アニマート】による女声合唱「幼き日のアルバム」他
邦楽連盟	11:30～	竹の調べ「陰陽句」「越天楽の曲」
ジャズ連盟	11:50～	【Purple Wind Jazz Friend's】による「ザ・ピンクパンサー」他
休憩	12:10～	
主催者あいさつ	13:05～	大谷 明市長 初見 宗郷 会長
伝統文化連盟	13:20～	ふるさと紀行・全国民謡の旅「木曾節」「南部牛追唄」他
吟詠剣詩舞連盟	13:40～	構成吟「名詞探訪」より「寒梅」「絶命の詩」「鳥江亭に題す」他
舞踊連盟	14:00～	舞踊「彩なす舞」と題して「雪ぼたん」「縁かいな」他
洋舞踊協会	14:20～	【エリーダンススタジオ】による「ノカモキアカケヒアロハ」他
民謡民舞連盟	14:40～	合唱「茨城船碁句」唄「秋田長持唄」民舞「茨城大漁節」
茶道連盟	15:00～	裏千家茶席

展示部門 (大ホールホワイエ) 10:00～16:00



【展示部門の様子】



展示部門全体の風景



展示部門全体の風景



写真連盟・俳句連盟合同展

【 舞台部門の様子 】

伝統文化連盟



吟詠剣詩舞連盟



舞踊連盟



洋舞踊協会



民謡民舞連合会



茶道連合会



【 主催者挨拶 】



初見 宗郷 会長

大谷 明 市長

【 展示部門の様子 】



陶芸協会



書道連盟



美術協会



囲碁連盟

美術部門

美術協会の活動状況

美術協会会長

横須賀 幸正

美術協会は、那珂湊美術協会と勝田美術協会が平成11年に統合し、その年に第1回展を实地し、今年で20年を迎えることが出来ました。

第20回記念美術協会展を7月6日(土)21日(日)の16日間、市役所那珂湊支所の展示施設で開催、第20回記念チャリティー小品展をアートスペース・ナカタニで同時開催しました。

お陰様で会期中の来観者数は約800人以上ありました。また、期間中には記念事業の一環として、記念展祝賀会をクリスタルパレスで開催しま

した。来賓に、市長はじめ、市議会議長、教育長、茨城新聞社ひたちなか支局長、市関係者が出席くださり美術協会会員と和やかなひと時を送れたことに感謝いたします。

これから市政とも文化の発展に貢献出来るよう続けて参ります。

集合写真



第20回記念美術協会展（那珂湊支所の展示室ーアートスペース・ナカタニ）

チャリティー小品展では、11点の作品が購入され売上金の一部（22,300円）を市社会福祉協議会へ寄付出来たことも励みになりました。

これも今まで続けてくる事ができたのは会員一人一人の努力の賜物です。なお、美術協会では毎年、年2回夏季と冬季に人物研修会を実施しました。また、11月には、風景画研究会（写生）も実施しました。

これからもより良い作品制作に励み研鑽して参りますのでよろしくお願いいたします。

令和元年度の活動状況

書道連盟副会長

矢野 雲峰

【書道連盟の行事】

- ・ 定期総会 4月14日 ふあみりこらぼ
- ・ 第44回連盟展併催学生展 4月24日～29日 市民交流センター
- ・ 一日体験教室 8月4日 市文化会館
- ・ 市芸術祭美術展 10月14日～20日 市文化会館
- ・ 文化協会春の祭典 2月2月9日 市文化会館

文字は記号であり、書は心の表現であるという。

【書道連盟会員の今年度の活動状況】

○4月に書道連盟展併催学生展を市民交流センターで催した。毎年行事であり会員の出品と学生、特に中学生も出品される。交流センターの多大な協力を得て、一般会員46点、学生56点の参加があり、駅前という場所もあり五百数十名の参観者があった。

次に一日体験教室は、市文化会館で8月4日に行われた。大人も交えて30名の参加者が楽しく充実した「書」の体験をすることが出来好評だった。

○市芸術祭書道の部は10月16日～20日まで行われた。搬入当日12日は、台風接近の為13日に変更となり、午前中に搬入、午後から審査・展示を一日で無事に行うことが出来た。外部審査員の先生も都合がついて、一般部の審査もスムーズに出来た。

○2月9日に行われた春の祭典では、15名の理事の方が出品しました。会員の中には、日展に連続入選する方、県芸術祭で入賞する方と、活躍が目立っている。

多くの鑑賞者で賑わった
第44回書道連盟展



書道連盟展

学生展の様子



市芸術祭美術展覧会
書道の部



陶芸協会活動紹介

陶芸協会会員

佐藤 祥市

陶芸とは設備を要するものです。焼成炉（電気設備含む）、電動ロクロや釉薬を描けるためのコンプレックス等、また、建物及び作業台などです。これらを個人で所有するには高額で無理があり、市が所有しています。協会は、これらを借用し、維持運営を行っています。

電気焼成炉は2台あり、素焼き、本焼合わせて年間40回以上も使用し

ているとトラブルも多く、苦慮しています。これらの維持管理や、メンテナンス人材も必要です。幸い協会には約70名の会員が在籍していますのでこの中には設備に詳しい人もいて、焼成を担当する焼成委員を中心



焼却炉

に何とか維持しています。

活動は、「自主活動グループ」を作り、年間約180日、延1,000人以上が陶芸室を利用して作陶に励んでいます。この他多種行事を実施しており、年1・2回技術向上を目的に、プロの陶芸家を招いて「技術講習会」を実施しています。どのようなコンセプトの基に作品を作っているのか、粘土はどのようなものを使っているか、釉薬は・・・などとプロもたじたじの質問が飛び交います。その都度参考になる作り方を学ぶことができます。この技法を工夫して自分なりのアレンジを加え、成功している会員も多数います。

多種多様な経験をもとに、一般市民を対象にした教室「レッツ土曜陶芸」を開催しています。毎年5月から11月まで実施しており、会員を増やすのに役立っています。

また、幼稚園などの卒園記念陶芸教室、福祉団体からの陶芸依頼、子供陶芸教室・津田コミセン祭りでの陶芸絵付け教室などで、講師の派遣や、作品の仕上げ、つまり乾燥・素焼・釉薬掛け・本焼までを取り纏めています。作陶している子供たちの

生き生きした顔を見てみると幸せな気分になります。絵付け教室では、お母さんと3歳ぐらいの子供さんが、スマホの画面を見ながら絵をかくいて、お母さんは、トトロを、子供さんはカーズを描いていましたが、「ここは丸でしょ」などといったながら楽しそうに書いていました。本当にほほえましい姿ですよ。

まずは、日々陶芸の技術向上を目指して、自分たちが楽しむことを第一に、市が掲げる芸術の町での一環にかかわり、貢献していきたいと考えています。



津田コミセン祭り 絵付け教室の様子

加齢に見合った“芸”を

写真連盟会長

平野 伸生

事業の中で、最も重きを置くのが年5回開催の作品研究会で、創設時から続けている。作品を各自持ち寄り、忌憚なく批評しあう。こうした活動の集大成が、「市写真連盟展」である。今年度は3月9日から16日まで開催し、会員34人、67点の他、姉妹都市の那須塩原市那須支部の佐川栄治氏他4名の招待作品も展示した。好評の福田顧問の「ギャラリートーク」は、今回も県内各地から関係者が訪れ会場を埋め尽くした。

11月27日に

実施の撮影会は、「成田山新勝寺・航空科学博物館・房総のむら」の3か所で17名参加した。出来映えは本稿では間に合わないが作品に期待が持てる。9月下旬、



関係者で埋め尽くされたギャラリートーク



一日体験教室関係者 前列右が篠塚副会長(故人) 後列右から2人目が木村敏雄氏

幹事役の篠塚ミノル副会長の愛車で、福田顧問等5名でドライブがた下見を楽しんだ。篠塚氏が突然体調を崩され身罷られたのは、それから僅か2ヶ月後の12月7日である。本会創設時から尽力いただいた方だけに、氏の逝去は惜しみても余りある。

8月4日に実施した「一日体験教室」は、9組23名親子の参加があった。この教室では、2年ほど前からパソコンに精通した木村敏雄氏の協力を得ている。また、「写真&俳句」も今年で9回目を迎え、26名87点の写真に俳句連盟会員から句が寄せられ、「春の祭典」と市民交流センターの「コミュニケーションギャラリー」で7

月3日から8日まで実施した。

平成10年頃は、「花の60代」と形容されていた。それから20年を経た今日、会員36名の平均年齢は76・4歳であるから「花の80代」否「人生100年時代」もそう遠くない。こゝまで来たら、寄る年波と上手に向き合い、加齢に見合った“芸”を究め「花の80代」を楽しみたいものである。

音楽部門

演奏会によせて

合歓の会

小野 昭子

平成30年に私たちの指揮者である武田京子先生の

女声合唱を指揮して50周年記念演奏会

ケイズ コン ソノ K's Con Sono

（武田京子と歌う仲間たち）を日立シビックセンターで開催しました。先生の指揮の下で総勢140人の仲間たちがひとつになり、満員のお客

様と感動を共にした、心に残る演奏会となりました。



K's Con Sono 合同ステージ

そんな私たちの次の目標は、20年6月27日、市文化会館小ホールで開催する「合歓の会45周年記念演奏会」です。演奏曲は、日本人作曲家による作品から「雪の窓辺」他。美空ひばり作品集「川の流れるように」他。愛を歌うのステージは、「愛の讃歌」他。最後に大田桜子作曲の女声合唱組曲「母の手」全曲。以上の4ステージです。

現在、猛練習中です。当日は、ご

来場下さった皆様や、歌うことを応援してくれている家族へ感謝を込めて歌います。どうぞ聴きにいらして下さい。



合歓の会 会員一同

活動紹介

市民吹奏楽団

事務局長 宮内 慶樹

当団では、2019年12月15日に「第35回定期演奏会」を市文化会館大ホールにて開催しました。

今回の演奏会は「新時代を祝おう！吹奏楽生誕祭」と題し、明治2

年に発祥した日本の吹奏楽150周年を記念して、2019年に70歳、80歳、100歳になる吹奏楽の作曲家による作品を演奏しました。

また、5月に開催しました「スプリングコンサート2019」では、水戸商業高等学校ダンス部の皆さんを特別ゲストとしてお迎えし、吹奏楽とダンスのコラボレーションにて盛大に開催いたしました。

その他の活動としては、ふあみりこらぼまつり、市内小学校への楽器指導、11月に開催されました茨城県内の吹奏楽団（20団体）が集まったの市民バンドフェスティバルにも参加し演奏してきました。

こうした活動は、市民の皆さんや同じ吹奏楽で活動している方との貴重な交流を深める場でもありますので、来年度も団の演奏会以外にも、依頼・慰問演奏や小学校への楽器指導なども継続して活動して行きたいと思っております。

最後になりますが、ここまで活動が続けてこられたのも、文化協会のご支援やご協力があつたからだと思います。心より感謝申し上げます。

これからも聴いて下さる皆様笑顔になる演奏や、市民の皆様にあ

れるバンドを目指して活動していきますので、市民吹奏楽団をよろしくお願ひします。



第35回定期演奏会



スプリングコンサート2019

オーケストラを楽しもう♪

市民オーケストラ

副団長 大塚 浩

当団はひたちなか市を主体とした近隣市町村の市民によるアマチュアオーケストラです。1982年に市内の音楽愛好家たちによって結成され、創立38年を迎えます。

今年度の活動としては、5月のフアミリーコンサート、10月の定期演奏会の他、有志による依頼・慰問演奏を行いました。

特に初めての試みであったファミリーコンサートでは、ご来場の皆さんと演奏者が一緒に楽しめるようにアニメからクラシックまで一度は耳にしたことがある曲を中心としたプログラムとしました。特別ゲストには、いばラッキーをお迎えし、小さいお子さんから大人まで楽しめるコンサートにすることができました。このような団員だけでなくご来場の皆さんも楽しめる演奏会は今後も続けていきたいと思ひます。

定期演奏会では、メインには、ジャン・シベリウス「交響曲第2番」



第38回定期演奏会の模様

中プロは、ライネツケ「フルート協奏曲二長調」、前プロに、ウエーバー「魔弾の射手」というプログラムにチャレンジしました。中プロでは、地元の演奏者をお迎えしていますが、今回は当市出身のフルート奏者と演奏しました。いずれも難曲で音質やリズム取りにセンスが求められ大変苦労しました。

また、ここ数年では、有志により、幼稚園、保育園、老人施設、地元のスーパードなどでの演奏も行っています。大勢で演奏するクラシック音楽とは違ったアンサンブル形式で、お子さんから大人まで音楽を楽しく身近に感じて頂けるジャンルの曲をお届けしています。

これからも皆さんと一緒に楽しめる演奏、オーケストラの魅力をお届けできるように取り組んでいきます。

定期演奏会を終えて

Bトレイン・ジャズ・オーケストラ

ドラム担当 齋藤 恭央

第27回、今回のコンサートの開催回数である。メンバーの多くは、このバンドで27年間を過ごしているが、自分は、このバンドに所属してからまだ2年ちよつと、まさに「ひよっこ」である。

自分が音楽を始めたきっかけは、

中学生の時の部活動であり、その後の環境にも恵まれたこともあり、今日まで社会人としての仕事とアマチュアとして趣味の音楽活動を並行して続けてくることができた。ただ、ビッグバンドは、慣れ親しんだ吹奏楽とは違い「指揮者不在」、「楽譜に音符が全て書かれていない」、「ノリが独特」、「一人一役（同じパートが複数いない）」、おまけに「アドリブのソロまである」そんな過酷な環境である。

このような状況の中、2年目を迎えた今回のステージも「緊張による震え」と「汗」により、手元のスティックが滑ってどこかに飛んでいってしまうのではないか、という緊張の中での演奏であった。

音楽は、聴くも楽しいが、奏することも、また、違った楽しさを感じることができるものである。「音楽」は、「音を楽しむ」というが、聴くだけであれば、「音を楽しむ」となるが、奏できるとなると、楽しむ前に「音学（学ぶ）」、「音が苦（苦しむ）」のハードルが必ずやってくる。けれども、そのハードルの先には、聴くとは異なる楽しさが待っている。



第27回定期演奏会にて

Guest
仲野 亜紀子さん



これがあるから音楽がやめられないのである。

舞踊部門

令和元年度市芸術祭参加

舞踊連盟 西牧 恵美子

令和元年度の芸術祭が台風一過の10月13日(日)、市文化会館大ホールに於いて開催されました。

前日のリハーサルは大型台風の影響の為に中止となりました。当日は那珂川が決壊するという状況の中、無事開催できたのも関係方々のご尽力とご協力の賜物でございます。この場をお借りし深く感謝申し上げます。

このような状況の中、ご来場の皆様にはご高覧頂き、出演者一人一人に暖かいご声援を賜り、私共にとりましては一層思い出深い舞台となりました。例年同様に開場11時30分、開演時間を12時として幕を開けました。古典舞踊18番、舞踊まつり11番、中でも体験こども教室「菊づくし」「花くらべ」の舞台は見事に華を添えてくれました。



▲長唄 菊づくし 体験こども教室 ▼大和楽 花くらべ



▲清元 - 卯の花(西牧 恵美子)

最後に連盟企画演目【彩なす舞】と題し、寿・縁かいな・さんさ時雨・さのさ・潮来あやめ踊りで舞い納めました。ともあれ、其々の流派、教室の一年間の成果が咲き揃った明るく楽しい舞台となりました。

日本舞踊は子供たちには日本文化の誇りを大人には人生に豊かな彩を添えてくれます。舞踊連盟会員一同これから共に仲良く精進して参りたいと存じます。

末筆となりましたが、台風で被災された皆様には心よりお見舞い申し上げますと共に、一日も早い復興をお祈りいたします。

バレエ&ジャズフェスティバル

洋舞踊協会会長 及川 英美子

第42回となるバレエ&ジャズダンスフェスティバル。今回も暮れを彩る賑やかさの内に無事幕を下ろすことができました。

今回は参加団体中4団体総勢200名余の出演者がパフォーマンスを繰り広げました。

ミュージカルを思わせる様な華やかなダンスや、ジャズの名曲にのせて踊るシャープなダンス、クラシッ

クの旋律で美しいバレエが披露されました。中にはディズニの歌に合わせて元気に踊る小さなバレリーナの姿も。いずれの団体でも小さなダンサー達はひと際大きな拍手に包まれていました。

そしてこの幼いダンサー達の中から今では国際大会で優勝するほど立派なダンサーが育っております。地方であっても芸術は育つ事に誇りを持ち今後も活動して参りたいと思っています。



ハレルヤバレエ 「クリスマス ワンダーランド」



ハレルヤジャズダンス
「シャーロックアン あきこの夢」

高木文子バレエスクール
「 Coppéliaより 友人の踊り」



エリーダンススタジオ「 Sing. Sing. Sing 」

伝統芸能部門

次世代に思いを馳せて

邦楽連盟

小林 久子

「ウワーツ、むずかしそう！」
「きれいな音色！」 「思ったより力
がある！」 学校ボランティア17年の



学校ボランティア活動より

歩みです。子供たちの成長は1年ごとに目覚ましい。温かい先輩たちの導きが大きく、心技共に励まされ、保護者の皆様からの応援にいつも一つの輪（和）になります。舞台上の空気が曲中どんな研ぎ澄まされ、演奏が盛り上がります。



市芸術祭 「WHITE MEMORIES ～白銀のソナタ～」



市芸術祭ジュニアの部 「光と風と」

一方視点を外に向ければ、これから国際化に向け、ひたちなか市として、観光に求められた方たちに、日本の文化に触れるコーナー等を、織り込まれた企画があれば一段と「観光」と「体験」としても沢山の日本文化を伝えて行ける事でしょう。

第50回吟詠剣舞記念大会

吟詠剣舞連盟

常任理事 島田 悟郎

新元号「令和」を迎え、勝田支部と那珂湊支部が統合され、第50回記念大会を菊薫る10月20日(日)市文化会館小ホールにて開催しました。

大会は、記念式典を挟み3部構成で進行。式典では、市民憲章を全員で朗読後、ご来賓いただいた、代表の先生方より心温まる御祝辞を賜り、半世紀のながきに渡り、先人たちが、ら引き継がれ、脈脈とされてきた伝統文化活動に対し、伝承のバトンを受け継いだ現代の我々は改めて次の世代へと伝える責務があると痛感している次第です。

第3部(一般吟詠)は、



第50回記念大会 式展の様子



合吟コンクールの様子

合吟コンクール、招待者吟詠、構成吟と続き、合吟コンクールでは、海洲流の青年グループ・幼年グループが、優勝・準優勝を獲得、会場を大いに沸かせ、これからの吟界の未来に明るい光を感じるコンクールでありました。

構成吟「剣と舞で綴る常陸の詩歌」は我々、郷土常陸に、数多くの詩人たちが駆け抜け、素晴らしい詩歌を書き記しています。その数多い詩歌の中より、律詩・和歌を含めて十数詩を剣舞と詩舞とで、華麗に表現し構成・演出されました。常陸

(茨城)の国は、精神文化の発祥の地で有ると、改めて再認識されたのではなからうか。

表彰式・閉会式と続き大会は予定時間どおり終了し、中身の濃い充実した大会でありました。

令和の時代へ伝承

民謡民舞連合会

事業担当 横須賀 文彦

歌は世につれ、世は歌につれ、うるわしき日本の和の心、民族芸能民謡民舞を一層広く内外に保存伝承をしています。

幸いにも当市は、いち早く保存伝承活動に取り組み、小中学生に依る郷土芸能「子ども伝統文化フェスティバル」も10周年を迎え、連合会では磯崎小、平磯小、平磯中を担当してきました。文化協会の一日体験教室や、市主催の、高野小、佐野中の体験学習を担当しました。唄い踊り継がれた郷土の民謡で、ふるさとの心と愛を育んで頂けたと思います。



民謡民舞連合会 一日体験学習指導員

今後も機会あるごとに伝承普及活動を継続して行きます。恒例事業の春まつり発表会、秋まつり大会では各方面の後援を頂き盛会に終えることが出来ました。

【芸術祭秋まつりのコンクール結果】

市長杯 元木長次郎(小鈴会)
市教育長杯 有賀 正一(新光会)
市議会議長杯 倉持 秀子(谷井会)
連合会会長杯 合唱の部(塩幡会)

今年度の芸術祭鑑賞会

伝統文化連盟事務局長 鈴木 隆

今年度の「ふるさとの伝統芸術文化鑑賞会」は、伝統の素晴らしさと、伝統への私たちの思いの深さを、市民の皆様にも僅かでもお伝えしたいとの思いを込めての設定です。

新元号「令和」には、「人々が美しく心を寄せ合う中で、文化が生まれ育つ」と言う意味が込められているとのことですが、高度情報化の渦中にある私たちには、心を寄せ合えるゆとりが必要なかも知れません。今年度の鑑賞会には、そのような時代背景もあって、例年になく大勢の方にご来場いただき盛況裡に終了することができました。市の芸術文化の更なる進展に少しでもお役に立てたのではないかと安堵しております。

なお、若い方の姿が余り見受けられませんが、伝統的な分野共通の課題として、次代を担う後継者の育成が急がれています。今後はその解決策に力を注いで参りたいと思っております。

鑑賞会メインテーマ「きらめく伝統、守るもの伝えるところ」



舞台創作華道



全国民謡の旅



響き合う音霊



磯節



平安歳時記

いけばな展

古流松ノ会



華道・茶道部門

いけばな展

華道連合会会長

杉山 豊和

菊香る11月2日・3日と、毎年恒例のいけばな展を開催させていただきました。

1階、2階の会場が花の香りに包まれた中、各流派とも個性ある作品を発表いたしました。

両日ともお天気にも恵まれ、多数のお客様にお越しいただき、大変ありがたく思っております。

これからも花を愛し、ますます精進してまいりたいと存じます。



出瓶者集合写真

い
け
ば
な
展



池坊



会場風景

それぞれの歴史

茶道連合会会長 高野 新一

今年の研修先は、埼玉県比企郡川島町にある、私立美術館「遠山記念館」に足を運ぶ。

民間建設では類を見ない技術・資材・技巧を選び抜き、惜しみない財を投じて造られた昭和初期の建築物であり、他には観賞出来ない造りばかりである。美術館には、茶道具・染織物・書画・工芸品等それぞれ一級品が存在する一見の価値は充分にある。

私ごととしては、五大陸・三大瀑布を踏破し、生活の中に存在する飲み物による休息・安寧の状況を見聞きました。それぞれの国・地域により木・木の実草等を利用して、

日本には、古来の伝統文化である茶道があり、建築様式・庭園・陶芸・塗芸・書・花等々を求めて茶を喫する文化は、他に無い様に思われる。55年間茶道に身を置



表千家茶席



裏千家茶席

「関 南北東西活路通」
今年度の連合茶会は、11月8日(日)市文化会館にて開催いたします。皆様のおい出下さる事をお待ちしております。

いて、過去6人程の指導を受けているが、求めるものは尽きない。茶道を志している若い人達は年々少なくなっている。特に男性は、複雑多岐に渡る難解な世の中を乗り切るには、茶道の道は、最適な一つの道と思われる、より良き指導者を求めて

文学部門

芸術祭参加俳句大会

俳句連盟会長 大野 ひろし

第44回芸術祭参加俳句大会が11月17日(日)市文化会館で開催された。

今大会より地域の文化の振興という趣旨に則り昨年までの全県下からの募集を止めて、応募者はひたちなか市在住者と当市への勤務者及び当俳句連盟の会員とした。

その結果、募集句は396句、当日の参加者は34名と少なくなったが、今までのようなミニ県大会の様相はなくなり、和やかに親近感のある、文字どおり市の芸術祭らしい身近な俳句大会となった。募集句・当日句とも初めて入賞する方も何人か出て、今後もこの方式で続けていくことに確信を持てる大会となった。

以下は当日の成績 「募集句」の部

市長賞 川上 修一
名画座の古き看板小鳥来る
市議会議長賞 早瀬 貞夫
ひぐらしの道は子供にかへる道

市教育長賞 大野ひろし

海の色変へて押し出す梅雨の川

市文化協会賞 高橋 和彌

藤椅子の過去形という凹みかな

市俳句連盟会長賞 早瀬 貞夫

持ち上ぐる地熱もろとも大西瓜

大野ひろし特選 堀江八重子

老犬の重き首輪の溽暑かな

酒井 功特選 塩谷きみこ

よろづ屋の「すぐ戻ります」豊の秋

吉元 絹江特選 早瀬 貞夫

ひぐらしの道は子供にかへる道

高橋 和彌特選 早瀬 貞夫

ひぐらしの道は子供にかへる道

「当日句」の部 席題(新)

市長賞 川崎とみ子

米寿とてまだまだ熟女新酒酌む

市議会議長賞 高橋 和彌

焼いもを包む即位の新聞紙

市教育長賞 鈴木やすを

八十路てふ新たな坂を冬帽子

市文化協会賞 吉元 絹江

新走り笑い上戸が下げてくる

市俳句連盟会長賞 伏屋 雅子

新妻の稲刈るまでの白き指

大野ひろし特選 高橋 和彌

焼いもを包む即位の新聞紙

酒井 功特選 鈴木やすを

八十路てふ新たな坂を冬帽子

吉元 絹江特選 奥村 洋子

障子貼るただ事の日々新なり

高橋 和彌特選 高橋 哲夫

これ切りの免許更新夏終る

棋道部門

囲碁連盟1年間の活動

囲碁連盟会長 藤谷 十一

令和元年度の行事として、対外的には県北市町村親善囲碁大会(日立市が幹事)、姉妹都市交流囲碁大会(那須塩原市が幹事)をまた内部行事としてひたちなか市囲碁大会と連盟内の大会を行いました。

ひたちなか市囲碁大会は、前回までは市民囲碁大会でしたが、日立市や常陸太田市などの近隣都市からの参加者なども多数参加して市民だけではない拡大した大会になったので、名称を今年度から変更したものです。

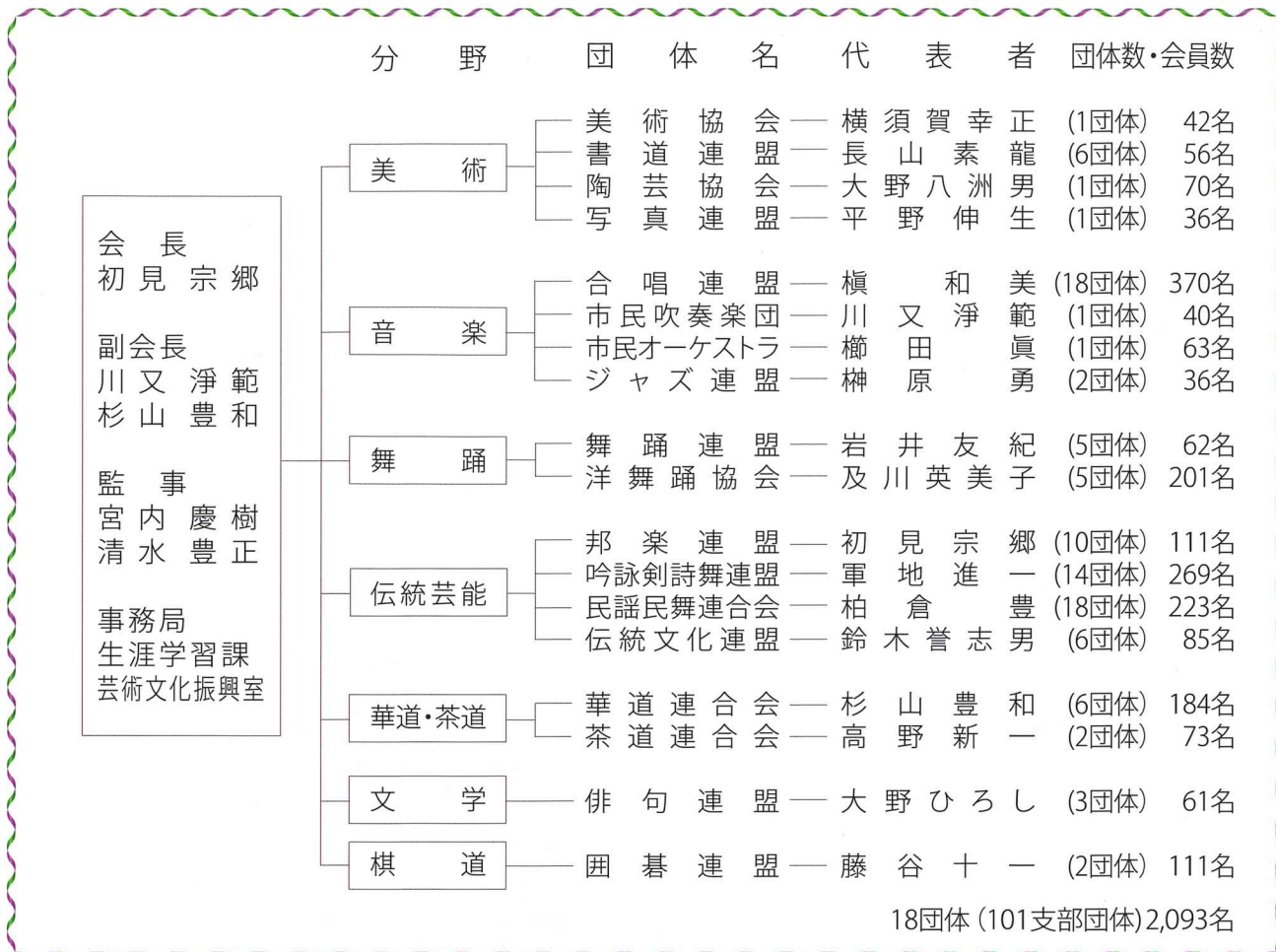
姉妹都市交流囲碁大会は、今年度は第18回でした。今年度の初め頃に高齢ドライバーによる事故が全国的に多発したため、この交流囲碁大会でもその危険性が高いという判断から中止することに先方(那須塩原市)と協議して決めました。第19回(来年度)は当市が開催場所ですがそれを最終回とすることになりました。

毎週土曜日には、今までと同様に連盟内の大会またはミニ大会を行っています。これは研鑽の場としてレベルアップにおおきく役立っています。



ひたちなか市囲碁大会

ひたちなか市文化協会組織図



編集後記

文化協会では各団体が日ごろよく努力をかさねてそれぞれの分野で成長と発展をめざしていると思えます。その様子は毎年開催される芸術祭で披露されています。

また、文化協会および各団体では、文化の向上にも願いを込めて活動していると思えます。現在、活動している人たちの数が少なくなっているという現状で、これからは末永く活動を続けていくにはどうすればよいかということを考えなければならぬときだろうと思えます。4年前に始めた一日体験教室はそのひとつのよい方法です。高齢化による会員数の減少を補うため、若い人たちに各文化団体のことを知っていただき、一緒に活動してもらいたいという試みです。

『白亜紀』は17年前から発行されていて、協会と構成団体の紹介をしてきています。この会報誌もひろく市民の方たちに読んでもらって、ひたちなか市の文化の向上に役立ってほしいと願っています。

編集委員長

白亜紀第18号 編集委員

- 委員長 (囲碁連盟) 藤谷 十一
- (美術協会) 塚原 幸子
- (合唱連盟) 曾我部富代
- (民謡民舞連合会) 廣木 稔
- (茶道連合会) 川崎恵美子
- 事務局 芸術文化振興室
- 木田 伸子

【春の祭典の様子】



洋舞踊協会



華道連合会



写真連盟・俳句連盟合同展

会 報 白 亜 紀
発行日 令和2年3月31日
発行者 ひたちなか市文化協会
事務局 ひたちなか市市民生活部生涯学習課
芸術文化振興室（ふぁみりこらぼ内）
TEL 029-272-6301
FAX 029-272-9297